

理論研究のアカデミック・ライティング

2015年6月12日(金) 18:00-20:00

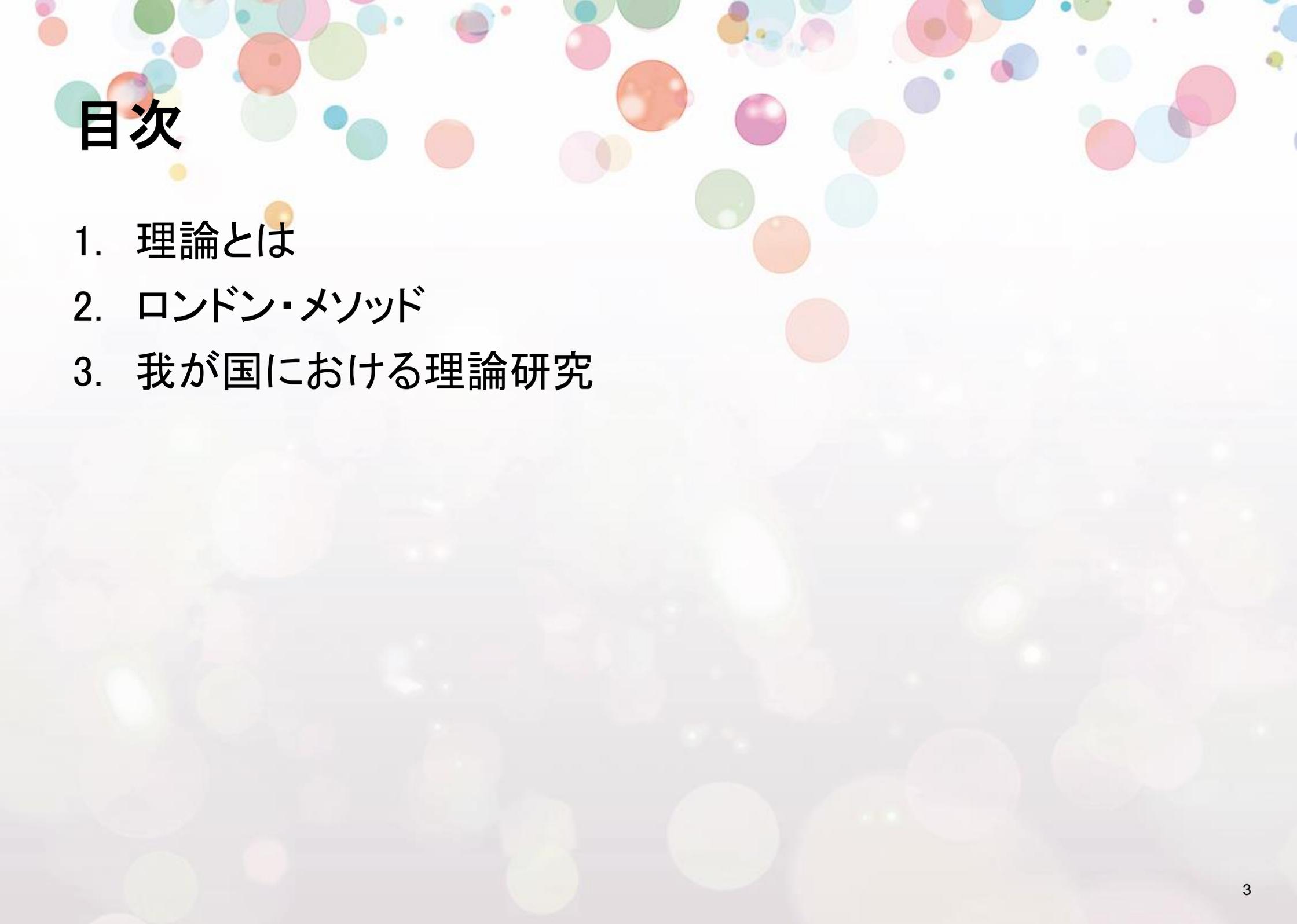
日本比較教育学会第51回大会: 宇都宮大学

田中正弘(筑波大学)



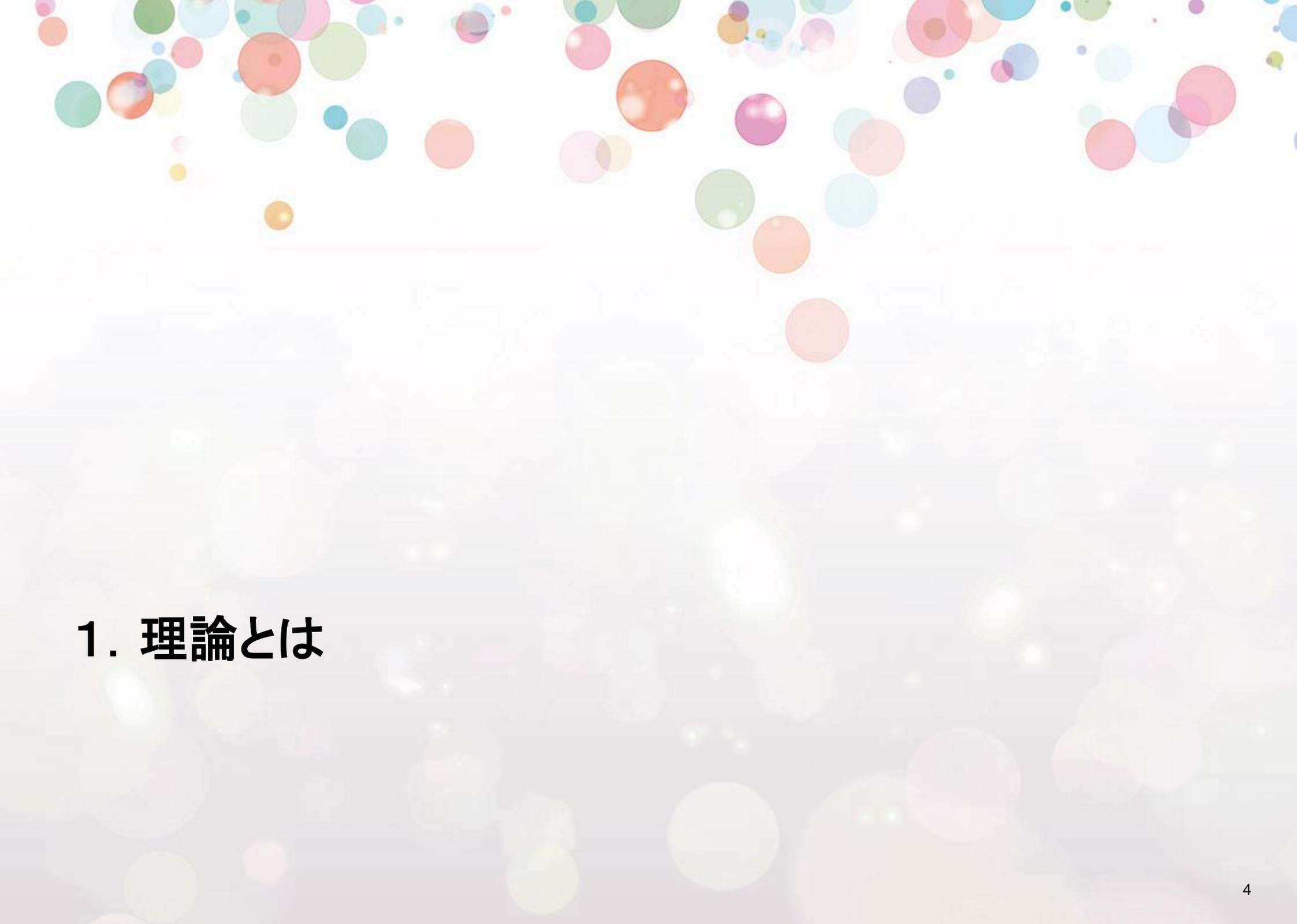
本発表の目的

- 本発表の目的として、理論研究のアカデミック・ライティングのあり方の一つである、「ロンドン・メソッド」を紹介する。そして、我が国の比較教育学における理論研究のあり方について、議論を深めたい。



目次

1. 理論とは
2. ロンドン・メソッド
3. 我が国における理論研究

The background features a collection of colorful, semi-transparent circles in shades of red, orange, green, blue, and purple, scattered across the top half of the page. The bottom half of the page is filled with a soft, out-of-focus bokeh effect of light-colored circles, creating a dreamy and artistic atmosphere.

1. 理論とは

理論とは

- 「理論」(theory)とは、「個々の事実や認識を統一的に説明し、予測することのできる普遍性をもつ体系的知識」(広辞苑, 2008: 2968)のことである。
 - ちなみに、「論理」(logic)とは、「思考の形式・法則」または「実際に行われている推論の仕方」(広辞苑, 2008: 3016)のことである。

理論の例：ニュートンの運動方程式

- 高校物理で習う運動方程式は，下記のように表される。

$$ma = F$$

- この式を自由落下運動に当てはめると，重力加速度が重さ，形，大きさによらず一定であると**予測できる**。
- ところが実際は，鉄球と羽根の落下速度は異なる。
- 上記の式は，「**理想的状態**」においては，鉄球でも羽根でも，同じ加速度で落下することを示している。
- 社会科学の分野では，この理想的状態を作り出すことが大変難しい。

理論の例:ピケティの不等式

- トマ・ピケティ(2014: 28)によると、「資本収益率が長期的に成長率を大きく上回っていれば(つまり、 $r > g$ が成り立てば)、富の分配で格差が増大するリスクは大いに高まる」。
- この理論を証明するために、20か国以上の税務の推移を、200年以上追跡する作業を行っている。
- ただし、それらの記述はG5(特にフランスとイギリス)に集中している。
- さらに、**例外**も多々指摘されている。例えば、20世紀前半は、 $r < g$ であったことが示されている。

The background features a white top section with scattered, semi-transparent, multi-colored circles in shades of red, orange, green, blue, and purple. The bottom section is a light gray gradient with a bokeh effect of soft, out-of-focus light spots in various colors.

2. ロンドン・メソッド

ロンドン・メソッド(1)

- ロンドン・メソッドとは、ロンドン大学比較教育学講座の教授であった、ニコラス・ハンス (Nicholas Hans) , ブライアン・ホームズ (Brian Holmes) , ロバート・カウエン (Robert Cowen)などが受け継いできた、理論研究のアプローチのことを表す。
- ロンドン・メソッドでは、自らが立てた理論を証明するために、**歴史的な事実を多国間で比較する方法**を多用する。
- その基本的なルールには、以下のものがある。
 - (言語・文化・地理的条件が異なる)**3カ国以上の国を比較**する。
 - (よく知られた)**歴史的事実の描写**によって、理論を**哲学的に実証**する。
 - 理論に反する事実の存在を許容するが、なぜ反するのかを哲学的に説明する必要がある。

ロンドン・メソッド(2)

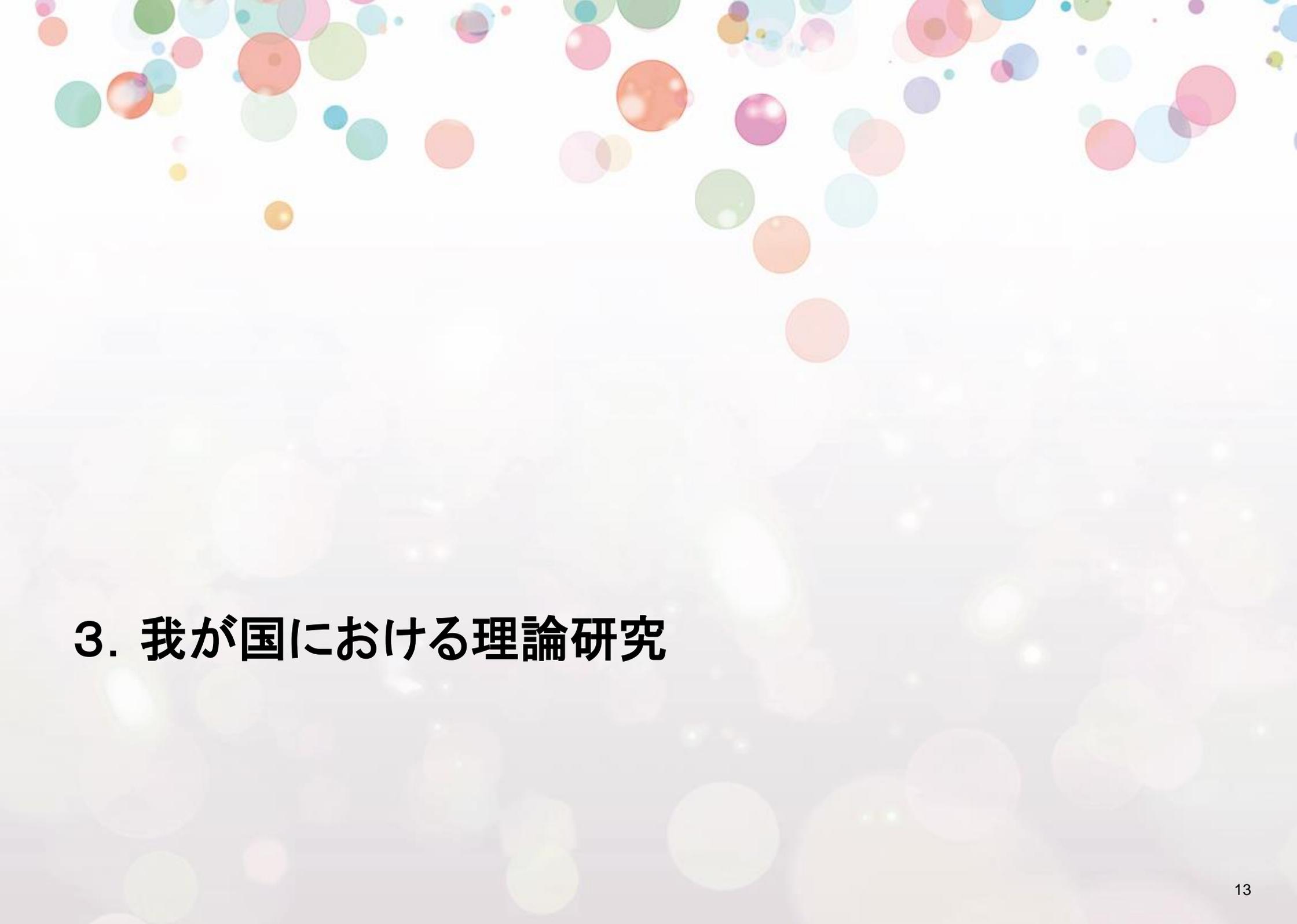
- 言語・文化・地理的条件が異なる3カ国以上を比較するのは、誤った論証を避けるための工夫である。
 - 例えば、複数の丸い果物を比較した結果から、帰納法を用いて、推測「全ての果物は丸い」という結論を導いたりする誤りのこと。
- ただし、対象国を選ぶ基準には一定の制約も必要となる。
 - 例えば、旧共産圏の教育の資本主義化を一般化する目的ならば、ブルガリア、エチオピア、モンゴルなどの旧共産圏を比較すべき。
 - とはいえ、世界的な傾向をモデル化する場合などは、主要先進国（アメリカ、日本、ドイツ、イギリス、フランスなど）が、無批判に選ばれることが多い。

ロンドン・メソッド(3)

- よく知られた歴史的事実を用いるのは、都合の良い事実を恣意的に抜き取ったという批判を避けるための工夫である。
 - よって、歴史的事実の描写は多くの場合、著名なテキストの引用・参照でつないでいく方法がとられる。
- 多くの国の歴史的事実を描写し、それらの分析の結果から、類似点を見いだすことで、結論(理論)を構築する。
- このような帰納法的論証では、「**納得感**」が要となる。
 - 納得感は、適切かつ膨大な量の事実の描写に裏打ちされる。
 - 納得感を損なわない程度の多少の例外は許容される。

ロンドン・メソッド(4)

- 理論研究の論文執筆のテクニックとして、以下の方法がある。
 - 論文執筆の構想段階で、演繹法による「思考実験」を試みる。
 - 演繹法を用いると、自明の理論「AはBである」などをつないでいくことで、結論(仮説)を見いだせる。
 - この仮説の妥当性をテストするために、膨大な量の歴史的事実と照らし合わせる作業を行う。
 - この作業の中から、仮説を実証でき、かつ読者を納得させられる事実を抽出することで、論文化の道筋をつけられる。
 - 結論(仮説)が、人々が普段おぼろげに描いている未来予想図と合致するとき、その研究成果は耳目を集めやすい。

The background features a collection of colorful, semi-transparent circles in shades of red, orange, green, blue, and purple, scattered across the top half of the page. The lower half of the page is filled with a soft, out-of-focus bokeh effect of light-colored circles, creating a dreamy and artistic atmosphere.

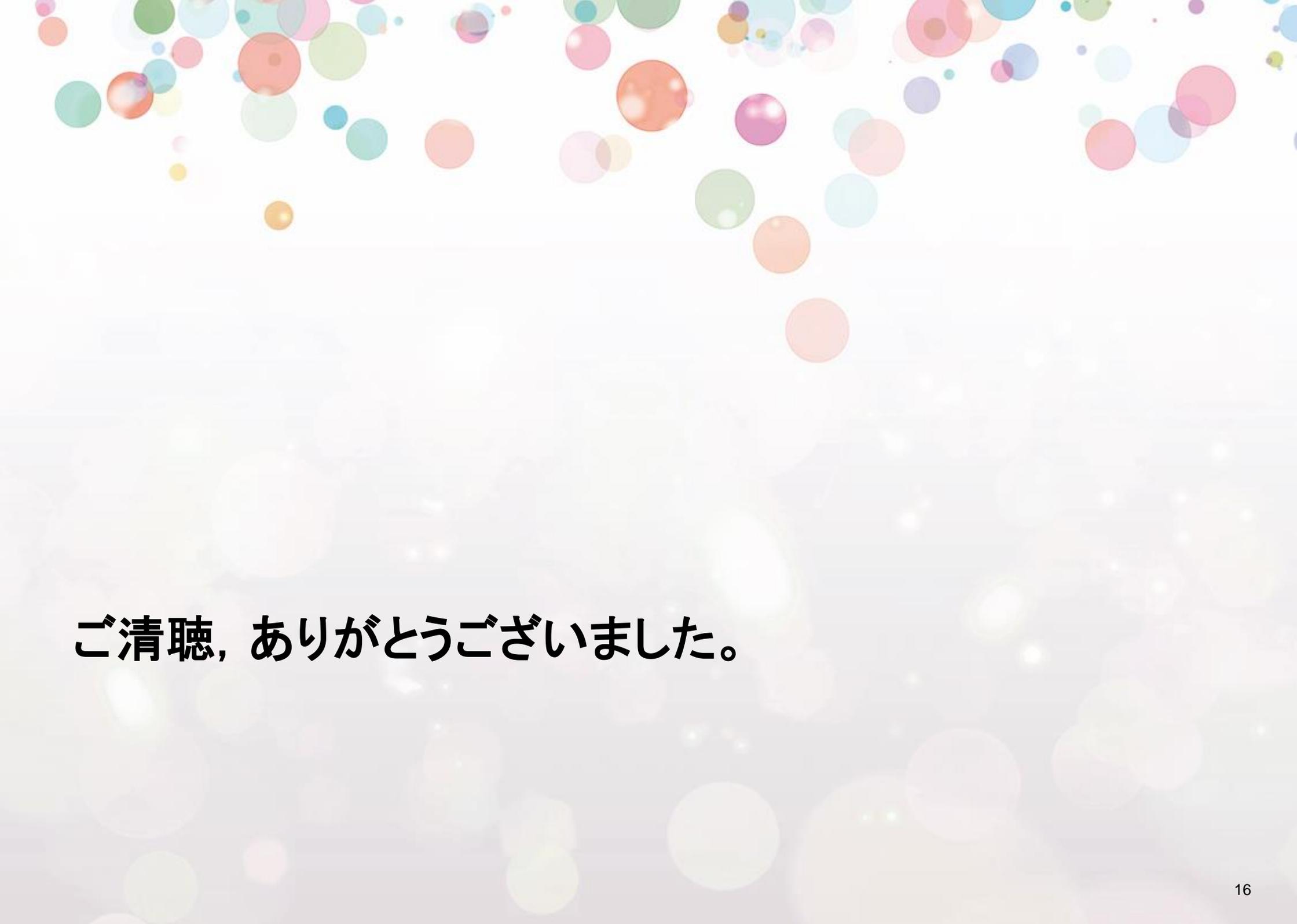
3. 我が国における理論研究

我が国における理論研究(比較教育学)

- 我が国において、理論研究が活発であるとはいえない。
- 理論研究の発展を妨げている要因は二つある。
 - 哲学を学問(思考方法)の基礎としていないこと。
 - 日本の比較教育学者は人類学的な地域研究を好むこと。
(各国の教育を地域固有の文脈で把握することを自らの使命と定める人にとって、比較は不要である。正確な理解と正確な記述が重要となる。)
 - しかし、日本人が、仮にイギリス高等教育を正確に理解し、正確に記述できたとしても、イギリス人の研究者にとっては、価値のある研究にはならないだろう。
- 多くの国に当てはまる理論を日本人が構築することは、知の(受容だけでなく)貢献として、世界から希求されることである。

ピケティのメッセージ

- 本書『21世紀の資本』の唯一の目的は、過去からいくつか将来に対する慎ましい鍵を引き出すことだ(ピケティ 2014: 背表紙)。

The background features a white top section with scattered, semi-transparent, multi-colored circles in shades of red, orange, green, blue, and purple. The bottom section is a light gray gradient with a bokeh effect of soft, out-of-focus light spots in various colors.

ご清聴, ありがとうございます。